平成２０年３月　発行　社団法人　東京都建築士事務所協会　　監修　東京都建築構造行政連絡会

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

※修正箇所は下線を引くこと

１．一般事項

（１）構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

（２）記号

d…異形棒鋼の呼び名に用いた数値　丸鋼では径　D…部材の成　R…直径

●…間隔　r…半径　℄…中心線　ℓa…部分間の内法距離　ｈｏ…部材間の内法高さ

ＳＴ…あばら筋　　ＨＯＯＰ…帯筋　Ｓ ＨＯＯＰ…補強帯筋　φ…直径又は丸鋼

２．鉄筋加工、かぶり

（１）鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折曲げ角度90°はスラブ筋・壁筋の末端部またはスラブと隣接に打ち込んで施工上折曲げしにくいキャップタイにのみ用いる。
図				
鉄筋の余長	4d以上	6d以上（4d以上）	8d以上（4d以上）	

折曲げ内法寸法Ｒは、ＳＲ235≧3d以上、ＳＤ295Ａ、ＳＤ295Ｂ、ＳＤ345のD16以下は、3d以上、D19以上は4d以上

末端が角度135°、90°においてSD390を使用する場合、

末端が方法寸法Rは D29以上はSRに対して5d以上

＊片持スラブ上端筋の先端

（２）鉄筋中間部の折曲げ形状　鉄筋の折曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所による区分	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内のりＳ寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	ＳＲ235、ＳＤ295Ａ ＳＤ295Ｂ、ＳＤ345	D16 以下	3d以上
			D19 以上	4d以上
	上記以外の鉄筋	ＳＲ235、ＳＤ295Ａ ＳＤ295Ｂ、ＳＤ345	D16 以下	4d以上（5d以上）
			D19～D25	6d以上（6d以上）
			D29～D38	8d以上（8d以上）

※（　）内はSD390を使用した場合を示す。

（３）鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の区分（N/mm²）	定着の長さ 一般（La）	定着の長さ 下端筋（La） 小梁	定着の長さ 下端筋（La） スラブ	特別の定着及び重ね継手の長さ（Ls）
ＳＲ235	21～36	35d フックつき	25d フックつき	150mmフックつき	35d フックつき
	18以下	45d フックつき			45d フックつき
ＳＤ295Ａ ＳＤ295Ｂ ＳＤ345	21～36	35d または 25d フックつき	25d または 15d フックつき	10d かつ 150mm以上	40d または ~~35d フックつき~~
	18以下	40d または 30d フックつき			45d または ~~40d フックつき~~

＊SD390に見least下段（曲げ）とよる。

継　手

1．末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない

2．継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする

3．直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする

4．D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない

5．鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない

ガス圧接継手

圧接継手　　重ね継手（下図のいずれかとする）

（４）かぶり厚さ　（単位：mm）

ひびわれ調査目地部など鉄筋のかぶり、厚さが部分的に減少する箇所についても最少かぶり厚さを確保する。

部位			設計かぶり厚さ(mm)	最少かぶり厚さ(mm)
土に接しない部分	屋根スラブ・床スラブ	屋内	30	20
	非耐力壁	屋外	40[1]	30 (20)
	柱 はり 耐力壁	屋内	40	30
		屋外	50[1]	40[1](30)
	擁壁		50[1]	40
土に接する部分	杭・はり・床スラブ・耐力壁		50	40[2]
	基礎・擁壁		70	60[3]

（注）(1) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承諾を受けて30mmとすることができる。

(2) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承諾を受けて40mmとすることができる。

(3) コンクリートの品質および施工方法に応じ、工事監理者の承諾を受けて40mmとすることができる。

(4) 軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。

(5) （ ）内は仕上げがある場合。

(6) 土に接する部分のかぶりは増加する厚さを打ち増しとする。

（５）鉄筋のあき

丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上

粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上

異形鉄筋　丸　鋼

柱

梁

（６）鉄筋のフック（a～fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。）

a．丸鋼　b　あばら筋、帯筋　c．柱頭の鉄筋

d．壁、梁（基礎底は除く）の出すみ部分の鉄筋（右図参照）

e．単純梁の下端筋

f．その他、本記基準等に記載する箇所

３．杭　（地震力等の水平力を考慮する必要のある場合は、別途検討すること。）

（１）ＰＲＣ杭、又はＰＨＣ杭の全てに補強を行う

所定の位置にとまった場合

所定より低くとまった場合

傾いた φ≦φの場合 φ>φの場合は工事監理者の指示による

杭径	300φ、350φ	400φ	450φ	500φ	600φ
補強筋	8−D13	8−D13	10−D13	8−D16	10−D16
HOOP	D10−@150				

（２）現場打ちコンクリート杭

杭頭処理

４．基　礎

（１）直接基礎

（２）杭基礎　S−19 参照

フック付　　フック無し

（３）べた基礎

ハンチを付けた場合（α≧3）

1．耐圧版鉄筋の継手位置は底スラブにならう

2．①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする

3．②の鉄筋はD13以上

4．地耐し土のある場合はHを0とする

（４）基礎接合部の補強

＊印筋はD16−@200とする

H<300は＊印筋は不要とする

W:の三角型寸法は、300以上又は地中梁幅とし、

勾配は両端の長リストにならう

５．地中梁

（１）独立基礎、杭基礎の場合（定着、継手）

（２）布基礎、べた基礎の場合（定着、継手）

＊上端主筋の定着は、やむをえない場合、上向きとすることができる

（３）小規模鉄骨造柱脚固定の記載

（４）水平ハンチの場合のあばら筋加工要領

＊一般のあばら筋と同形のものを2本束ねる

＊一般のあばら筋と同様のものを2本束ねる

（５）せいの高い梁のあばら筋加工要領図

D：1800を超える場合

６．柱

（１）柱主筋の継手

（２）柱主筋の定着

（３）帯　筋

（４）斜め柱・斜め梁

（５）絞り

（６）二段筋の保持

梁筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の区分（N/mm²）	定着の長さ 一般（La）	定着の長さ 下端筋（La） 小梁	定着の長さ 下端筋（La） スラブ	特別の定着及び重ね継手の長さ（Ls）
SD390	21～27	40dまたは 30dフックつき	25dまたは 15dフックつき	10dかつ 150mm以上	45dまたは ~~35dフックつき~~
	30～36	35dまたは 25dフックつき			40dまたは ~~30dフックつき~~

	設計	沖縄市体育館建設工事 ■（有）ウイング建築設計事務所　■ 建築研究室　匠斎庵 ■ ＧＡ企画設計　　共同企業体	（有）ウイング建築設計事務所 事務所登録：第196−899号 所在地：沖縄県浮縄市山Ｒ4−20−1 電　話：(098) 933−8486　FAX (098) 933−8599 管理建築士：1級建築士登録　第194942号 具志堅　達　印	監理	(有)みき建築設計 事務所登録（知事）第101−946号 沖縄市美里５丁目２３番１０号 ＴＥＬ（０９８）９３８−２２０８ 一級建築士　第１９４９６４号　大城　直樹	工事名称　沖縄市体育館建設工事（建築工事） 工事場所　沖縄市諸見里二丁目１番１号 図面名称　鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）	承認年月日 縮尺　1/— （A3版1/—）	図面番号 S−02